

# Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：松原伸禎 事務局：TEL.03-3985-3135 <https://www.r-keizaijin.net/>

## 新春賀詞交換会



2023年2月2日（木）、日比谷松本楼にて恒例となる「新春賀詞交換会」が開催されました。今回は新型コロナウイルスの感染後3年ぶりのリアル開催となり計57名（会員53名、ご来賓3名、オンライン1名）の出席をいただきました。

18時からの第1部講演会では、2022年8月に立教学院理事長に就任されました福田裕昭様にお越しいただき、「立教学院理事長就任における抱負ならびに2023年国内外情勢について」と題して1時間にわたりご講演いただきました。（講演内容は次ページ）

続く19時より第2部の賀詞交換会がスタートしました。品川総務委員長の司会の下、物故者への黙祷から始まりました。次に開会にあたり、大塚裕司会長より、新年のご挨拶をいただきました。「ようやくコロナも明けつつあり、久々にリアルでお目にかかれることを嬉しく思っています」と声はずませ、「厳しい環境かもしれないが仕掛けと仕組みを用意し、それを味方にしながら会員の皆様と共に成長して、立教学院、ひいては日本の成長を促し、強い日本が復活できるよう、会長として発信していきたいと思っています」と述べられました。

続いて、ご来賓を代表して、西原廉太立教大学総長よりご挨拶をいただきました。「常日頃、立教経済人クラブの皆様には大学に対して多大なるご支援を賜っておりますことを改めて心より感謝申し上げます」とし、「メディア出身で政財界、文化界に幅広い人脈をお持ちの福田理事長をお迎えできたこと



は大変喜ばしく、私と福田理事長は学院史上最年少の理事長&学長コンビです。我々二人の若さと勢いで皆様が立教出身であるということ誇れる大学へと躍進していきたい」と今後の決意を語られました。

その後、開宴前のお祈りを経て、福田裕昭立教学院理事長より乾杯のご発声をいただきました。「このような会合は久々で、晴れやかな気持ちになりました。今日は皆様と楽しく懇談させていただきたい」と笑顔で乾杯となりました。

乾杯後の懇親会では、ローストビーフや松本楼名物のカレーライスをはじめ、おいしい食事とお酒を頂きながら、様々な業種、年齢の垣根を越えて情報交換が活発に行われておりました。最後に昆凡子副会長より中締めをいただき、閉会となりました。

—松原 伸禎 2000史—



## 新春賀詞交換会 基調講演

講師：立教学院理事長 福田 裕昭

2022年8月に立教学院理事長に就任いたしました福田裕昭です。理事長に就任して半年が経ち、できるだけ早く色々なことを身に付けて立教学院のために働いてまいりたいと考えております。

### ■「紫」の研究

まずは、お正月の駅伝で話題になった「江戸紫」についてお話したいと思います。立教大学陸上競技部男子駅伝チームの襷の色は「江戸紫」という紫色で、ユニホームも同じ色です。しかし、立教のスクールカラーについて広報室に見解を尋ねると、公式のカラーは紫（こい紫青・DIC-226）ということでした。さらに西原総長は「ロイヤルパープル」という紫色もあると話します。「ロイヤルパープル」は英国王室の色、つまり「王者の色」という意味があるそうです。立教学院元総理のライフスナイダー氏が来日し、オフィシャルシンボルを決める際、彼の母校であるアメリカの聖公会系学校のカラーである同様の紫色を引用したのではないかと、という説が有力なようです。

ではなぜ駅伝の襷の色は「江戸紫」だったのでしょうか。実はこの「江戸紫」は「ロイヤルパープル」とまったく別の経緯を辿っています。立教池袋中高の入口には「ムラサキ草」というムラサキ科の花が植えてあり、この花は校歌「栄光の立教」の歌詞にある「紫匂える武蔵野原に」の由来となっている、と説明が添えられています。江戸時代に武蔵野原に自生する「ムラサキ草」を使って江戸で染めたことから「江戸紫」という名がついたそうです。陸上競技部の関係者に話を聞いたところ、校歌の「紫」を陸上競技部のシンボルカラーとしたという話ですので、襷の色が「江戸紫」であることは間違いありません。今回、箱根駅伝を通じて改めて立教の歴史を学び直すことができました。

### ■立教学院理事長としての抱負

立教学院の理事長として最も力を注ぐべきことは何か？と考えますと、立教を多くの方々によりご支援いただくための渉外活動はもちろんのこと、一貫連携教育、課外活動（スポーツ・文化）、就職活動等のさらなる活性化、加えて生涯学習の推進が挙げられます。卒業後に校友会に入り、「生涯立教人」として共に過ごす、ということとはとても重要です。例えば、改めてセカンドステージ大学で学んだり、大学の講義を引き受けていただいたりと、教



えたり教わったりという関係を持ちながら「立教人」として歩んでいただくというものです。校友会を中心に、生涯を通じてコミュニケーションがとれるアプリの開発も検討しています。「生涯立教人」であることを誇りに思えるような立教学院にしていきたい、と議論を進めているところで

す。2024年の創立150周年、そしてさらには創立200周年に向け、持続可能な学校経営を探求し、「選ばれる立教」であり続けなければいけません。最近のアンケート調査で、立教大学のイメージは、「国際性豊か」、「洗練されている」といったポジティブな言葉がある一方、同じ学部合格した際に他大学を選択してしまう受験者もいることは事実です。最終的に選ばれるということがいかに重要であるかを痛感しています。

今後200周年を迎えるまでの道のりは簡単なものではないでしょう。昨年の国内出生数は81万人です。第二次ベビーブームの時は210万人だったのと比べると半減しています。大学進学率に目を向けると、ここ数年横ばいで推移して頭打ちになっています。今後は学生数がさらに減少に転じていく中で、選ばれるためにはさらなる工夫をしていかなければなりません。

その糸口のひとつとして「女性活躍」という言葉に注目しています。立教大学は女性が占める比率が年々上昇しており、学部学生数の56%までになっています。大学としても、世界で活躍できる質の高い人材を育成すること、女性が活躍できる社会づくりが大切だと思っております。他大学に先駆け、立教大学を卒業した優秀な学生が活躍する社会をイメージしつつ、巣立っていく学生たちを立教経済人クラブの皆様とともに支えていくことが将来に向けたポイントだと考えています。

—松原 伸禎 2000史—



## 第3回 勉強会

講師：アース製薬株式会社代表取締役CEO 川端克宜氏

2023年2月20日（月）19：00より今年度第3回目の勉強会が池袋のメトロポリタンホテルにて行われました。リアル開催は2019年度以来3年ぶりです。今回はアース製薬株式会社代表取締役社長 CEO 川端克宜様をお招きし、ご講演いただきました。

## テーマ 『ゼロベース思考による強い組織づくり』 ～時代に揺るがぬ経営基盤をつくる～

## 1. ゼロベース思考の改革へ

川端克宜社長は、アース製薬株式会社（以下、アース製薬）入社後、2006年に35歳で歴代最年少の支店長として広島支店に着任、その後、2013年取締役ガーデニング戦略本部本部長を経て、2014年に代表取締役社長に就任した。

川端社長は、会社のこれまでの経営基盤の一つでもある虫ケア用品（殺虫剤）市場について、取り巻く構造変化に対する危機感を持っていた。

虫ケア用品市場において、アース製薬は現在も国内シェア No.1 だが、入社した30年ほど前は、虫ケア用品が事業構成の大半を占めていたようだ。しかし虫ケア用品市場は、気候変動に大きく左右されることがあるため、事業の構造改革を進める必要があった。そこで、2018年を機に虫ケア用品の一本足打法から脱却し、事業の多角化を進めた結果、現在では虫ケア用品のシェアを落とすことなく、日用品などの事業が約70%を占めている。

## 2. ゼロベース思考による新たなビジネスモデルの構築

2020年には、ゼロベース思考による新たなビジネスモデル構築の一環として、日本発の革新的触媒技術「MA-T™ (Matching Transformation System®)」の応用技術開発促進、産業創造による経済効果や社会問題解決の可能性を探るべく「一般社団法人 日本 MA-T 工業会」を設立。現在は、MA-T 学会名誉会員にノーベル生理学賞・医学賞受賞者である東京工業大学名誉教授大隅良典氏が、MA-T 学会会長に大阪大学特任教授土井健史氏が就任されている。

MA-T™ とは革新的な酸化制御技術で、感染症対策からエネルギー分野まで幅広い応用が期待されており、今後は日本発の革新的な技術の認知拡大と社会実装が MA-T 工業会及びアース製薬のミッションと考えている。



## 3. お客様目線による市場創造

アース製薬では、お客様目線の商品開発に徹底してこだわっており、実際に頂いた声を積極的に商品開発に活かしている。「お客様のご意見」が重要であることを改めて社内外へ発信する為に、例えば、お客様からの相談窓口の部署名を「お客様のお気づきを活かす窓口部」とし、商品パッケージには「お客様からお気づきを頂く窓口」と記載している。

併せて、従業員もアース製薬の社員である前に一人のお客様であるという発想から、社員が社内で新たな商品提案できるツールも導入し、商品開発に努められている。

## 4. 経営理念と人財

アース製薬では、「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を経営理念として、「全員参画、コミュニケーション、人がすべて」をアースバリューとしている。そして「お客様目線による市場創造、熱意・創意・誠意、すぐやる・必ずやる・最後までやる」をアースポリシーとして掲げている。今後も「愛とリスペクトがあり、関わる全ての人が幸せになる会社であり続けたい」と結んだ。

—菅原 清暁 2000心—





## クリスマス会



2022年12月19日(月)、3年ぶりに開催されたクリスマス会。例年では、会員皆様のご家族も招待してアットホームに開催してきたクリスマス会ですが、今回は、感染予防の観点から会員限定で開催。

会員42名、ゲスト8名の50名の参加者と広田チャブレン長をお招きし、厳かに開催いたしました。

久々に顔を合わせる会合に自然と皆様から笑みがこぼれ再会を喜ぶとともにクリスマスをお祝いすることが出来ました。

お陰様で、参加者皆様から多数の協賛を頂き、開催したプレゼント抽選会。ハズレなし、複数個の当選ありで、当選結果に一喜一憂、久しぶりのクリスマス会を一同で楽しみました。

コロナ後に入会された会員の皆様には初めての

規模会員交流の場でした。今回は特に多くの新入会員の皆さまが参加され、新旧会員の大交流となり、大盛況のうちに会が終了いたしました。

今後も運営委員会では、会員交流・活性化に向けた取り組みを開催していきますので皆様ぜひご参加ください！

—長谷川 章博 2000物—



### 対外交流委員長インタビュー

—長引いたコロナ禍もようやく終わりが近づき、今後当クラブの鍵となる他団体との交流の展望について、神谷志志委員長(1998卒(株)伸和熱処理 専務取締役)にお話を聞いてきました。

#### ●対外交流委員会のお仕事を教えてください。

対外交流委員会ではその名の通り、立教経済人クラブ以外の団体組織との交流を企画・運営しています。今までに開催したイベントで言えば、同志社大学東京校友会様とコラボした「ビジネスパーソンセミナー」や、立大と同志社大で対戦したアメリカンフットボールの試合の合同観戦などを担当してきました。

#### ●現在取り組まれている活動内容は？

コロナの影響もあり2年ほど具体的な活動実績はありませんが、引き続き同志社大学とは合同でイベントを開催できるよう、打合せは続けています。

また、それ以外の新しい交流を進めるため、現在法政大学や千葉大学を卒業されたOBOGの方と、どんな交流ができるのか水面下で調整中です。

#### ●交流先の選定基準はあるのでしょうか。

対外団体といっても数多くの団体がありますが、私たちと同じような大学の校友が集まった組織であることを第一の基準としています。そして「経済人クラブ」の交流先ですから、できれば部活やサークル単位での集まりとかではなく、社会人経済人としての活動を指

針としている団体であれば、是非交流したいなと思っています。

#### ●今後「対外交流」が目指すものと会員の皆様へメッセージ

—社会人としてお会いすると、どうしても「会社」の看板を背負ってしまったり、ビジネス上の利害を気にして見えない上下関係が生まれてしまったりと、なかなかフランクな交流ができなかったりします。そんな中、経済人クラブは先輩後輩という関係性はあるものの、良い意味で立教らしく緩やかなお付き合いができる貴重な場です。その雰囲気は壊したくないので堅持しつつ慎重に展開していくつもりですが、その様なお付き合いに同調していただける交流先が増えれば、会員の皆様に提供できる出会いやネットワークの種類も増えますし、立教の弱点でもある校友数の少なさも多少はカバーできるのかなと思っています。学生のようなお付き合いができる経済人の集まり。そんな輪を各団体間にも広げていけるよう活動して参りますので、事業を実施した際には是非、会員の皆様にも参加していただければ幸いです。—松原 伸禎 2000史—





## 第80回 ゴルフ会

2022年12月4日(日)立教経済人クラブゴルフ会が埼玉県入間市にあります、名門の狭山ゴルフクラブで開催されました。

朝の気温が4℃と冷えておりましたが、スタート時には快晴で12月とは思えない程に暖かく、また風も弱く、格別なゴルフ日和になりました。フェアウェイの芝はきっちり手入れされており、グリーンは絨毯のようで素晴らしいコンディションでした。ただ、けっこうアンジュレーションがあり、曲がりそうで曲がらないという難しいところにカップが切っており、パターは苦勞しました。短めのホールはガードバンカーだらけで、視覚的なプレッシャーがありますが、長いホールはちゃんと花道がある等、凄く計算された素晴らしいレイアウトでした。池もけっこうありましたが、ミスショットをしなければ大丈夫という配置になっています。プレッシャーにはなりますが、コースの戦略性としての面白さがあります。この戦略性に富んだコースを制して優勝は38.37の75でまわりました金沢隆光さんでした。文句なしのベスグロ優勝です。準優勝は38.42の80でまわりました中川弘規さんでした。16名のゴルフ会でしたが、上位6名が90を切るスコアでレベルの高い回でした。新ペリア方式のコンペですので、グロススコアは関係なく、優勝のチャンスは皆さんにあります。ピギナーの方も大歓迎です。今回は久しぶりに賞品を皆様にお持ち頂きました。なぜかお酒が多いのは、以前からの伝統?でしょうか。(汗)参加全員に賞品がありますので、そちらもお楽しみです。次回は2023年7月に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



—長倉 一裕 1984法—

## information 経済学部インターンシップ支援

本年度も大学の夏季休暇時期を利用し、会員企業9社に学生インターンシップ受け入れのご協力をいただきました。経済学部との産学連携事業「インターンシップ」について、参加した科目履修学生11名全員が実習を完了しましたのでご報告いたします。学生の報告書が経済学部のキャリア教育サイトに掲載されました。ぜひ、参加学生がどのように感じたか等をご覧いただくと同時に、経済学部のキャリア教育の取り組みについても紹介されておりますのでご覧ください。

ご協力いただきました会員企業の皆様には心より御礼申し上げますと同時に、引き続き、インターンシップへのご協力をお願い申し上げます。

—林 雄太 1995営—

### ■ 経済学部キャリア教育サイト「STORY」



### 受け入れのご協力をいただきました 企業・団体様の一覧



企業名	受入人数
アイベツ損害保険株式会社	1名
AMWコンサルティング株式会社	1名
株式会社イオレ	2名
株式会社大塚商会	1名
株式会社企業変革創造	1名
株式会社三栄コーポレーション	1名
株式会社フジサワ・コーポレーション	2名
株式会社フジタ	1名
日本システム技術株式会社	1名

## 初心者向けワイン会

2022年11月28日(月)神楽坂のワインブティック『Pure Wine Boutique AROMEVERRE』にて、初心者向けワイン会を開催しました。銀座の名店『マキシム・ド・パリ』を皮切りに、多くのフレンチレストランの名店でサービスを担当し、名ギャルソンの誉れ高い岡部一己氏を講師に招き、ワインの基礎知識からマナーまで幅広くお話いただきました。

前菜2種・スープ・魚料理・肉料理・デザートのコース料理をいただきながら、7種類のワインを飲み比べつつ楽しみました。

ワイン好きが集まると、ワインだけでなくグルメ・旅行等と話ははずみ、笑いが絶えない会となりました。今後も様々趣向を凝らした、楽しい企画を計画してまいりますので、皆様のご参加をお待ちしております。



—小田切 理紗 2009法—



# 建学の精神をたづねて

## ～文化として日本の音楽が「世界の音楽」と遭遇したときの出会い方について～(後編)

神保町シンクタンク 黒田裕治 (1978年3月 法学部卒)

プロフィール/1955年7月4日 広島県尾道市生まれ。立教高等学校 立教大学を経て、近畿日本ツーリスト株式会社勤務。2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、現 神保町シンクタンクを主宰。トラスポヘルスケア販売株式会社創立

立教アルムナイの諸先輩の活躍は建学の精神に基づいています。立教大学の社会連携方針(\*大学HP参照)は教育と研究の成果を地域や社会に還元し、社会的な価値の創造に貢献することを目標としています。その連携を通じて、教育と研究のあり方をさらに豊かなものにするをめざします。社会と連携するにあたり、政府、自治体、企業、そして国内外の諸団体や個人との交流を進め、本学がもつ知やネットワークを社会と共に活用するような仕組みづくりをめざします。交流の中身を考えたとき『文化の交流』という観点でみると2020年9月号に寄稿した「観光立国の交流の現場」としてアルムナイが大きく関わってきたホテル業をご紹介いたしました。異文化交流とはなかなか厄介なもので、その出会い方によっては紛争や戦争にもなりかねないものであり、その出会い方をうまくプロデュースする知恵が求められています。

### 参照

wikipedia「文明の衝突」(ぶんめいのしょうとつ)は、アメリカ合衆国の政治学者サミュエル・P・ハンティントンが1996年に著した国際政治学の著作。原題は『The Clash of Civilizations and the Remaking of World Order』(文明化の衝突と世界秩序の再創造)。

冷戦が終わった現代世界においては、文明と文明との衝突が対立の主要な軸であり、特に文明と文明が接する断層線(フォルト・ライン)での紛争が激化しやすいと指摘しています。

今回は、日本の文化(文明)として、昭和の戦前戦後歌謡曲から、フォーク、ロック、ニューミュージックが外国曲と『文明との衝突』を起こし、そして融合、さらに新しい進化をしてきた場面に立教アルムナイのアーティストがその現場で立ち会っていることを検証していきます。「音楽」は一瞬にして人々の共感を得る凄いパワーがあり、嗜好の強いジャンルでもありますので、全くの個人的な見解ということをお含みいただき、「融合」の現場を検証して参りましょう。さて、前編では立教の大先輩、灰田克彦、ディックミネ、高石ともや(ハワイアン、ジャズ、フォークという西洋文明と日本文化の接点に立ち会った3氏の対応力)をご紹介しました。

1970年代に入ると、稀代のヒットメーカー、吉田拓郎が登場します。これまで反戦などの社会的な内容を歌っていたフォークソングは、1970年代から次第に恋愛や青春時代といった個人の心情を歌うものへと変わっていきます。1975年8月にはかぐや姫と吉田拓郎が中心となって「吉田拓郎・かぐや姫 コンサート イン つま恋」を開催し、約5万人の観客を動員。静岡県掛川市・つま恋多目的広場での野外オールナイトライブコンサートは「元祖夏フェ

ス」とも呼ばれています。(拓郎の兄は立教大学でジャズ研究会に所属しその後ジャズピアニストとなっている。)

### 松任谷 由実

立教女学院中高等学校出身で多摩美術大学卒業の「ユーミン(Yuming)」の愛称で親しまれている松任谷由実は、1954年1月19日生まれ。東京都八王子市出身のシンガーソングライターです。

自由で聡明な彼女はなんと中学時代から、当時米軍基地内のレコード店に入り浸り、欧米の最新ロックミュージックを聴き漁っていて、彼女の優れた感性で選曲したレコードをこれまた当時から出入りしていた国内外の文化人が集まったレストラン「キャンティ」で繋がったミュージシャンに最新の音楽シーンを伝えていた。1972年から「荒井由実」で活動をスタートし、1975年10月に発売されたシングル『あの日にかえりたい』がTVドラマの主題歌となり大ヒットを記録。1976年に松任谷正隆氏と結婚してから現在までは「松任谷由実」として活動しており、『真夏の世の夢』、『春よ、来い』などのヒット曲をリリースするほか、「呉田軽穂」(クレタカルホ)名義で松田聖子や綾瀬はるか、薬師丸ひろ子といったアーティストや女優に楽曲を提供しています。「ベルベットイースター」「ひこうき雲」など、当時の聖マーガレット礼拝堂で聖歌隊としての原体験が影響しているのかなと思ったりします。そこでのパイプオルガン プロコル・ハルムに強い衝撃を受けたと彼女の自伝で語っています。「翳りゆく部屋」は立教女学院のピアノで作ったらしいです。後の 細野晴臣 かまやつひろしとの出会いは夜の新宿や六本木でのライブハウスで培われた(?)友達ネットワークによる縁だそうです。

### 細野 晴臣

1947年(昭和22年)東京都港区生まれ。父方の祖父は鉄道官僚で、タイタニック号処女航海唯一の日本人乗客であった細野正文。母方の祖父である中谷孝男はピアノ調律師、叔母が外資系の映画会社勤務という環境から、幼い頃からポピュラー音楽に親しんだ。港区立白金小学校から越境で港区立青山中学校入学。パンカな校風の青山中学時代にロックに興味を持ち、15歳あたりからギターを手に友人とバンドを組む。その後立教高校(現立教新座高校)に進学。この頃、ボブ・ディランに大きな影響を受けた。立教大学在学中にベースをはじめ、数多くのバンドを経た1969年、エイプリル・フールのベーストとしてメジャーデビュー。その後、大瀧詠一、松本隆、鈴木茂とはっぴいえんどを結成し、細野本人は当初、日本語でロックを歌うことに反対していたが、結果として日本語ロックの礎を築く。1973年のはっぴいえんど解散後、ソ



ロ活動と並行して鈴木茂、林立夫、松任谷正隆とキャラメル・ママ（のちにティン・パン・アレーと改名）を結成。演奏・プロデュースチームとして多数のアーティストの楽曲に参加、荒井由実などのプロデュースも行う。シンセサイザー・コンピュータを用いた音楽やディスコへの興味が高まっていった1978年、元サディスティック・ミカ・バンドの高橋幸宏（立教中学、立教高校 アルムナイ）、当時スタジオ・ミュージシャンでもあった坂本龍一とイエロー・マジック・オーケストラ（Y.M.O.）を結成。当初は細野主体の企画もののバンドと捉えられていたが、1980年にはその活動がブームを巻き起こす。「テクノポリス」と並ぶYMOの代表曲「ライディーン」。イントロのコードは高橋がすでにキーボードで考えていたもので、続きの部分は坂本が聞き取ったものである。元々のタイトルは江戸後期の伝説的な力士「雷電爲右エ門」から『雷電』と表記された。坂本は「『雷電』には東海道五十三次のような浮世絵のイメージがあり、浮世絵が世界に影響を与えたように、自分達の音楽も世界に影響を与えることと重ね合わせた」と発言している。その後、細野の「アメリカで今『勇者ライディーン』っていうアニメがヒットしている」ので「じゃあ『ライディーン』にしちゃおう」という発言で「ライディーン」となった。ただし『勇者ライディーン』の英語表記はRAIDEENであり、綴りは若干異なる。無機質な表現とするため、あえて抑制したつくりだった「テクノポリス」に対して、「ライディーン」は逆に盛り上がるように作られている。また、細野は「遊びながら、当時の自分達では作れるとは思っていなかったサウンドができ、非常に楽しいレコーディングだった」と回想している。Y.M.O.の成功をきっかけにメディアにも露出するようになり、アイドル・歌謡曲界への多数の楽曲提供、新人発掘のためのレーベル「YEN」の高橋との共同による立ち上げなど個人としても精力的に活動を行う。また、ビデオ・ゲーム「ゼビウス」の音源をダンス・ミュージックにアレンジした『ビデオ・ゲーム・ミュージック』（1984年）をプロデュース、ゲーム・ミュージックが音楽ジャンルとして確立するきっかけを作った。いうまでもなく、はっぴいえんどという伝説のバンドに細野、高橋の2人が参画し、日本語のロックを確立。これは西洋文明としてのロックサウンドに日本文明としての日本語を融合させた文明の衝突（注：サミュエルハンチントンの文明の衝突）を争いではなく見事な融合をプロデュースしたといえる。ユーミンや高橋ユキヒロとの不思議な出会いがあり、日本の音楽シーンの新しい形を作ってきたことは、ウィリアムズ主教の思召しなのかなと今にして思う。

### 佐野 元春

1980年に、シングル『アンジェリーナ』でデビュー。詩人としてのメッセージを内包した歌詞、多様なリズムとアレンジ、ラップやスポークン・ワーズなどの手法を実践。さまざまなジャンルの音楽を折衷させた曲を数多く発表して作品の商業的ヒットに関係なく高い評価を得ている。現在は独立系レーベル「Daisy Music」を主宰し、インターネットを通じた音楽活動等でも先駆的な試みを続けている。中野区立第四中学校、立教高等学校（現・立教新座高等学校）1年の夏にボブ・ディランを知り、強い影響を

受ける。ディランが影響を受けた文学を探っているうちにジャック・ケルアックを知り、ビート・ジェネレーションに傾倒。15の時の3大ヒーローはボブ・ディラン、J・D・サリンジャー、ジャック・ケルアックだったという。立教高校2年になってようやく音楽部に入部、ピアノを始める。1974年4月に立教大学社会学部に入学。1978年に当時使用していたスタジオのエンジニアの薦めでヤマハポピュラーソングコンテストに出場。現在も精力的に活動し、幅広い交友関係を創造。独特の佐野ワールドに共感する世界のアーティストや日本のお笑い界の先端芸能人からもリスペクトされている。最近も桑田に請われて「時代遅れのロックンロールバンド」に参加。

注：「時代遅れのRock'n'Roll Band」（じだいおくれのロックンロールバンド）は、桑田佳祐 feat. 佐野元春、世良公則、Char、野口五郎の楽曲。チャリティー配信シングルとして、タイシタレーベル / SPEEDSTAR RECORDS からダウンロード配信・ストーリーミングで2022年5月23日に発売された。世界を一変させた新型コロナウイルスの脅威、全国各地で起きている自然災害、ロシアによるウクライナ侵攻などの話題が出てくる中で、「同級生：1955年生まれ」で協調して、今の時代に向けた発信ができないか？というアイデアが生まれたという。桑田は同じ年齢（1955年4月～1956年3月度生まれ、当時66歳）のボーカリスト兼ギタリストである5人で結集する構想を描き、楽曲の作詞作曲を行った。桑田にとって佐野とCharとは1980年代に共演歴があり、野口に関しては桑田がリスペクトしているという関係性で人選している。

ミュージシャンではありませんが、作曲家なかにし礼（1958年に立教大学文学部英文科に入学。中退と再入学と転科を経て、1965年に立教大学文学部仏文科を卒業。\*立教仏文の第1期生）の存在も歌謡界での功績は大変大きいです。この記事執筆している時に、ユーミンの50周年記念アルバムが出て紅白歌合戦に出演したり、高橋ユキヒロさんの訃報に接したり、50年ぶりの大学駅伝では母校が襷を繋いでくれました。日本の音楽という文明の一つの「変遷」に立教アルムナイの活躍が大きく関わっていることを是非お知りおきください。（佐野元春氏は 当経済人クラブ井口事務局長と筆者黒田の高校大学時代の同級生です。拙は同じクラスになったことはありませんでしたが、大学時代の仲間でクリスマスパーティーを企画した際、まだ売り出し前の佐野元春氏のバンドをお呼びして演奏してもらったことがありました！）さて、灰田克彦から佐野元春まで音楽という文明が世界の音楽と日本の音楽とどのように融合していったかについて駆け足で見ましたが、その接点の現場で、対立ではなく相互にリスペクトし合う関係に立教アルムナイが関わったということを是非ご理解いただけたら幸いです。

### 参照

各ミュージシャンのWikipedia 立教大学HPを参考にしています。



## 新しく会員になられた方々

(敬称略)

### 池田 康一郎 1995 産業関係

池田製粉(株) 代表取締役  
〒176-0011 練馬区豊玉上 1-25-5  
TEL : 03-3994-0005  
FAX : 03-3994-0007  
E-Mail : ikc10104@ikeda-seifun.co.jp  
そば製粉業

### 尾羽沢 功 1982 経済

クラウドストライク合同会社 代表取締役  
〒107-6329 港区赤坂 5-3-1  
赤坂 Biz タワー 29 階  
E-Mail : isao.obazawa@crowdstrike.com  
IT

### 神農 貴大 2009 法

ベスト・レギュレーション(株) 代表取締役  
〒166-0012 杉並区和田 1-21-16  
TEL : 03-3382-6870  
E-Mail : t\_kaminou@bestregulation.co.jp

### 岸 和良 1990 経済

住友生命保険相互会社  
理事・デジタルオフィサー  
〒104-8430 中央区築地 7-18-24  
TEL : 03-5550-5961  
E-Mail : kazuyosi\_kisi@am.sumitomolife.co.jp  
生命保険業

### 木村 繭子 2011 経済

EY 税理士法人 不動産金融 税理士  
サービス業 (士業)

### 五味淵 紀子 1990 史

(株) YPP 代表取締役  
〒101-0021 千代田区外神田 2-10-7  
T・Iビル 2 階  
TEL : 03-6206-4941  
E-Mail : nori@omakase-ypp.jp  
事務代行サービス業  
(アウトソーシング及び事務改善コンサル)

### 齋藤 真緒 2017 経済

(株)ねこのタミ 代表  
E-Mail : saito@nekonotami.com  
医療 (動物病院)

### 佐藤 顕子 2001 法

武藤綜合法律事務所 弁護士  
〒100-0006 千代田区有楽町 1-7-1  
有楽町電気ビルディング  
北館 5 階 512・513・514 区  
TEL : 03-6268-5880  
FAX : 03-6268-5881  
E-Mail : a.sato@muto-law.jp  
法律関係

### 武田 和広 1990 経済

SMBC 信託銀行 執行役員  
〒100-0005 千代田区丸の内 1-3-2  
TEL : 03-6854-6822  
E-Mail : Kazuhiro.Takeda@smbctb.co.jp  
信託銀行

### 豊 圭一 2012 コミュニティ政

(株)トヨプラ 代表取締役  
〒141-0021 品川区上大崎 2-14-3  
三笠ビル A 棟 3 階  
TEL : 03-5422-9385  
FAX : 03-5422-9358  
E-Mail : toyo@toyopla.co.jp  
インターネット広告代理業

### 根岸 宏之 1989 経営

GFA (株) 取締役会長  
〒107-0062 港区南青山 2-2-15  
ウイン青山 BIZ +  
TEL : 03-6432-9140  
FAX : 03-3408-5141  
E-Mail : hero@gfa.wotks  
不動産・金融・IT・エンターテインメント・  
サービスなど

### 半田 幹雄 1978 経営

あおぞら法務事務所 代表  
〒354-0041 入間郡三芳町藤久保 526-7  
TEL : 080-7893-0008  
中小企業診断士、行政書士

### 福田 裕昭 1984 経済

(学)立教学院 理事長  
〒171-0021 豊島区西池袋 3-34-1  
TEL : 03-3985-2753  
E-Mail : hiro.fukuda@rikkyo.ac.jp

### 本村 信人 1996 法

リサイクルファクトリー(株) 代表取締役  
〒066-0007 千歳市中央 690-1  
TEL : 0123-29-2030  
E-Mail : moto@r-fact.com  
廃棄物処理業

### 山中 拓也 2012 観光

(株)BLANC 代表取締役社長  
〒150-0046 渋谷区松濤 1-28-2  
E-Mail : yamanaka@blan-c.com  
トレーラーハウス設計、ホテルディベロッパー、  
ホテル運営

## 編集後記

この記事を書いているのは2月中旬。少しずつ春の気配を感じる時期となってきました。世間ではあれだけ苦しめられた新型コロナが2類から5類に変わるとのニュースでにぎわっております。新型コロナの影響で苦しめられた業界も多くあったかと思しますので、やっと明るいニュースと言えるのではないのでしょうか。さて苦しめられた話の後で恐縮ですが、「春は苦味を盛れ」ということわざがあります。これは早春に苦味を帯びた山菜や若葉を食べて、冬にのんびりしてしまった身体を目覚めさせるという知恵が詰まった言葉です。一方で春本番になりますと、寒さに耐えた甘さがギュッと詰まった野菜が出回ります。春キャベツや新タマネギを食べれば、春の活力が身体にみなぎります。経済を季節で表すと新型コロナの時期は冬、今は早春、5類になったところに春本番と言えるかもしれません。すると会員の皆さまの企業も活力が身体にみなぎっているのではないのでしょうか。是非その活力を日本経済に、地域社会に、当クラブに活かして頂きますと幸いです。立教に乾杯！

一村上 直人 1994立高一